

● もくじ

※はじめに
※この冊子の見方
※横浜市社協は…

1. 横浜市社協が考える「協働」とは…
(横浜市社協にとって「協働」は、今 なぜ重要なのか？)
(「協働の6原則」)
2. 協働の相手
(横浜市社協の「持ち味・特性」とは…)
3. 協働のかたち(形態)
4. 協働のすすめ方
5. よりよい「協働」の実現に向けて
(横浜市社協が取り組む「協働」…実践のポイント！)
(協働相手としての横浜市社協)

※事例集(8事例を掲載)

親子のフリースペース「てとてとあおば」・セーフティーネットプロジェクト
横浜・瀬谷 区子育て応援ネット・横浜市福祉サービス第三者評価 評価調査員
養成研修・福祉のま ちづくり(福まち)～ハード整備～・地域デイサービス
実施団体のための マネジメント・ ハンドブッ ク作成プロジェクト・学
校にボランティアセンターをつくろう！)

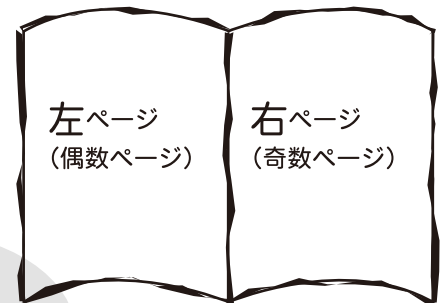


平成19年3月作成

● 冊子の構成

※A4サイズ 18ページ

※左ページ(偶数ページ) = 横浜市社協が考える「協働」についての記載
右ページ(奇数ページ) = キャラクター「よっしゃ！」が物語り風に解説
(基本的に、見開き両ページの内容は、左右で対応)



ぼくの名前は「よっしゃ！」
横浜市社協が考える「協働」を解説しているよ。

よっ しゃ!
こはまし かいふくしきょうぎかい
横浜市社会福祉協議会

よっしゃ! ヨコハマ社協

内 容（一部抜粋）

1. 横浜市社協が考える「協働」とは…

異なるもの同士が、お互いの強み（長所）や持ち味・特性を持ち寄りながら物事を進めることで、単独でそれを行うよりも相乗効果が生まれるもの。

横浜市社協にとって「協働」は、今なぜ重要なのか？

本来「社会福祉協議会（社協）」は、その名が示すとおり、協議体として市民や関係者・機関等とともに取り組みを行い、住民活動をバックアップしながら地域福祉の推進につとめる非営利団体です。その中で横浜市社協は、「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす」を活動理念として、市域の公私福祉関係者とともに地域福祉活動を展開してきました。

また、横浜市社協は市内の市民活動を支援する「中間支援組織」でもあります。横浜市には、社協のほか、市民主導でつくられた中間支援組織を中心に複数あり、それぞれが特性を活かしながら地域住民の活動をサポートしています。横浜市社協は、公共性に裏打ちされた信頼感と地道に重ねてきた実績、またそこから編み出されるネットワークやノウハウをもって、これらの他の中間支援組織とも連携を図りながら、今まで以上に地域福祉の推進に力を注いでいかねばなりません。

「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会」は、単体でつくりあげられるものではありません。私たちが目指すべきは、「みんなでつくりだす」ことです。横浜市内には、たくさんのパワーあふれる市民活動団体やボランティアグループが活動し、さらに企業、行政、中間支援組織等も大きな活躍をみせています。

それらの団体・機関等と目的を共有しつつ協力しあう「協働」は、私たちの理念実現のためにも、最も重要な方法のひとつです。



ヨッシャ！は、種まき名人。
地域の中に、たくさんのきれいな花をさかせたい！
そんな想いで、今日もたくさんの種を蒔き、育てています。

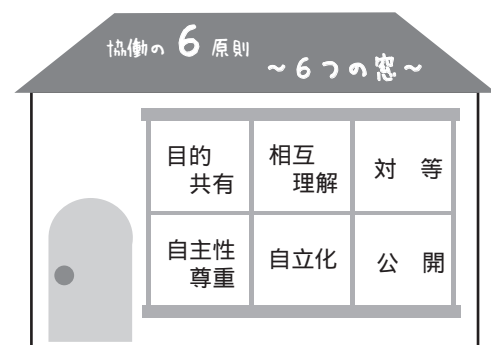
「協働」って何か…って？ それは…蒔いた種をみんなで一緒に育てること。
(蒔く作業から一緒にやることもあるよ)

どうして「種」を蒔くの？ 育てるの？

ヨッシャ！は、「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす」ことを目指してるんだ。
「地域課題への取り組み」っていう種は、育てていくと「周囲への理解」という芽や枝が伸びたり、「課題解決」という花や実をつけることがあるんだよ。

「協働の6原則」

- ・目的共有：協働することで、地域に対してどのような利益・効果がもたらされるかをしっかり共有し、将来像を描くこと。
- ・相互理解：それぞれの本質・理念・大切にしているポイント等をよく理解すること。
- ・自立化：常に自立した存在としてお互いを意識し、依存・癒着関係に陥らないようにすること。
- ・対 等：ともに事業等に取り組む時、上下ではなく横の関係（対等な関係）の中で物事を進めること。
- ・公 開：協働関係を結んでいる両者の関係が常に開かれた状態であること。
- ・自主性尊重：お互いの持っている特性・長所を最大限活かしあうこと。



2. 協働の相手

私たちは、「協働相手」を、さまざまな「団体・組織」と捉えています。

横浜市社協の「持ち味・特性」とは…

地域の地縁・志縁団体（※）、さまざまな機関等、対外的なネットワークはもちろんのこと、横浜市社協は福祉保健従事者の育成を手がける研修施設（ウィリング横浜）や、地域活動の拠点となる施設（地域ケアプラザ、地区センター、老人福祉センター）を複数運営していることも持ち味です。さらに、障害者支援センターをはじめ、障害当事者の視点をもった事業に取り組んでいることも特性のひとつです。地域福祉の推進という理念を同じくしつつ、それぞれのフィールドで培った視点を持ち寄ることで、取り組みに幅や深みを加えることができます。

※「地縁団体」とは、自治会・町内会等一定の区域に住所を有するものの地縁に基づいて形成された団体のことです。それに対し、「志縁団体」は、同じ目的（ミッション）のもとに集まったNPO等のことを指す言葉です。

3. 協働のかたち（形態）

他団体・組織と事業等を進めていくには、いろいろなかたち（形態）・方法があります。

例えば、共催、委託、助成、後援、事業協力、実行委員会、コーディネート等さまざまです。

横浜市社協では、このような「かたち（形態）」にとらわれることなく、いかに「協働の原則に沿っているか（＝原則に反していないか）」によって、「協働」を捉えていきたいと思います。

また、事業の目的に応じて、その遂行のために最も適切な手段（協働のかたち）を選択していきます。



「種」の育て方はいろいろあるのかって？
そりゃそうさ。

「種」にだってヒトツひとつ個性（違い）がある。みんな同じ育て方じゃダメだよ。お金を肥料にすることで大きく育つものもあるし、一緒に汗かいて畑を耕すことで育つものもある。いろいろなんだよ。

名人になるからには、「いろんなりタチがあるんだ」って、知っておくことが必要なんだ！

4. 協働のすすめ方

- ・検討：「この取り組みは、協働で効果があがるものかどうか」「地域にとってどんな成果が期待できるか」「お互いの持ち味を活かし、相乗効果を生むことができるか」等まずは協議・検討。

↓

【協働で実施しない場合】

（それぞれが）単独での実施を検討／中長期での取り組みを検討／目的達成のために、より効果があがると思われる他機関を紹介する等

【協働で実施する場合】

- ・企画：①計画 ②役割分担の確認 ③確認・共有
- ・実施：事業（等）の実施途中で適宜見直しを行い、必要に応じて軌道修正を行う。
- ・ふりかえり：①ふりかえり ②事業報告&成果のPR
- ・次のアクションへ

5. よりよい「協働」の実現に向けて

誰もが安心して暮らせるまち「横浜」をつくるためには、活動領域や組織形態等にとらわれることなく、それぞれの力を持ち寄って取り組みを進めることが大切です。

横浜市社協は、以下に示す「私たちが大切にしたい視点」を念頭に置き、今後もより一層「協働」に力を入れていきます。

横浜市社協が取り組む「協働」…実践のポイント！

- ①目的に応じたゴールの設定
⇒「終わりのないダラダラ協働（なんとなく協働）」ではなく、目的に応じたゴール（到達点）を設定します。
- ②役割分担の明確化
⇒それぞれの役割分担を明らかにし、取り組みを進めていきます。
- ③職員のスキルアップ（伝える力・つなげる力・ひろげる力）
⇒他団体・組織と取り組む「協働」実践に、必要なスキルの向上を目指します。

協働相手としての横浜市社協

「協働」は、単体ではなく複数の団体・組織とともに進めていくものです。よりよい実践を行うためには、パートナーとしっかりコミュニケーションをとり、信頼関係を築いていくことも重要です。

また、横浜市社協が協働相手を選ぶだけでなく、他から選ばれ認められるような魅力ある組織づくりをしていくことも必要です。

私たちのまち「横浜」には、それぞれのミッションや方針に基づき、「自分たちの暮らすまちを住みよいものにしよう」と活躍するたくさんの団体・組織があります。長い時間をかけて地道な活動を続けている団体、時勢の中で生まれた新たな課題に取り組む団体、全国にも類をみないユニークな活動を行う団体等さまざまです。

その中であって、私たち横浜市社協が取り組むべきは「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす」ことです。その実現のため、日々、地域に山積する生活課題に取り組んでいます。生活課題はそもそもジャンル等で縦割りにできるものではありません。私たちの掲げる理念を実現するためには、領域や組織形態にとられない積極的な「協働」が必要だと考えます。

また「協働」には、実践を通じて「組織・団体」がともに成長し、単体としての機能がより豊かになるという重要な側面もあります。私達も取り組みを重ねながら力をつけていくことで、さらによりよい横浜づくりに貢献できるよう努力を続けていきます。

よっしゃ！宣言



なんで、ヨッシャ！がそんなに「地域課題への取り組み」っていう種を蒔くのかって…？それはね、みんなで大切に育てて、「解決」っていう「花」（や実）が咲いたら、「横浜は安心して暮らせるまちなんだ」ってことを、いろんな人たちが実感できるようになるからなんだ。

そしてね、種を蒔いたり育てたりしながら、いつも思うんだ。種から育つ「花」や「実」はとってもダイジだけれど、収穫はそれだけじゃないんだなって。パートナーとの信頼関係やお互いのワザ（スキル）の向上…目に見えない、いろんな収穫があるんだよ。

お互いが力をつけたらさ、陰に隠れて見えなかった種が見つけれられるようになり、立派な苗や枝が育てられるようになるわけじゃない？

そうしたらさ、**横浜は今よりもっともっとステキな花が咲くまちになるよ。**

ヨッシャ！はこれからも、今まで出会った人たち・これから出会う新しい人たちと、たくさん種を育てながら、一緒に汗をかいていきたいと思ってる！

ヒトツでも多くの花（や実）を咲かせるために…。